

エクステリア情報誌 夏号

EX.VIEW

EXTERIOR
VIEW
2005・Vol.25

INDEX

2005年 夏号・Vol.25

1-4

古橋宜昌のEXプランニング講座

5-10

事例ノート

11-13

特別講座

京の庭師に学ぶ「和の庭」素材編

14-18

エクステリア施工コンテスト

入賞店発表

19-20

スーパー御庭番の

達人たち

21-22

御庭会通信



古橋宜昌の EX プランニング講座 第1回

ゾーニングの考え方と 実プランへの展開テクニック

今回からエクステリアのプランニング実践講座を担当させて頂くことになりました。

皆さんの毎日の設計業務にすぐ役立つ内容でプランニングテクニックを解説してまいりますのでどうぞ宜しくお願い致します。

さて、記念すべき第1回目はゾーニングについてです。ゾーニングなんて今更と思う方もいらっしゃると思いますが、競合他社との差別化を図る意味でもしっかりとしたゾーニングの考え方と、それをベースにしたプランニングが今後とても重要視されて来ることは間違いありません。

建物まわりのスペースをただなんとなく埋めてみました的な提案では施主の心を掴むことはできません。しっかりとしたコンセプトと動線、視線を意識したプランをきちんと提案出来れば「さすがプロは違う！」と思って頂けるわけです。

それではさっそく具体的な考え方について見ていくことに致しましょう。



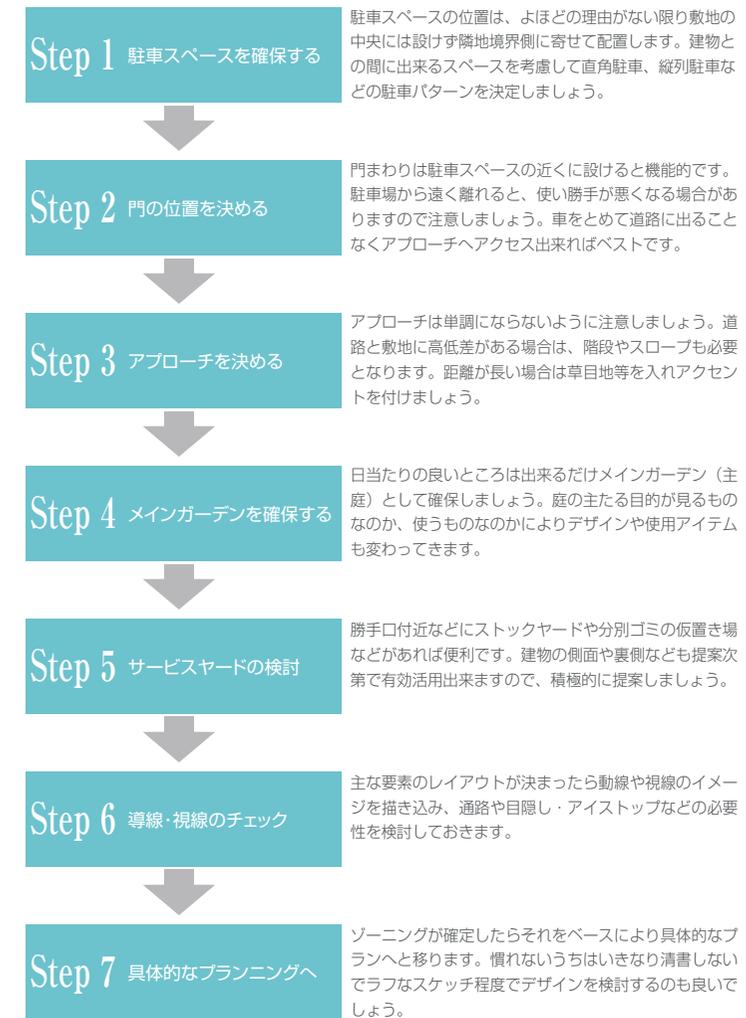
古橋宜昌 (ふるはし のりまさ)
 生年月日：1958年4月6日
 東京電機大学理工学部建設工学科卒。
 有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校長
 一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
 JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員
 大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、1997年、日本では珍しいエクステリア
 とガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
 個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を超え、その設計事例は多くの
 ガーデニング専門誌等で紹介されている。
 ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」の
 デザインと施工を担当。
 設計業務の傍ら専門学校や英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテスト
 や「TVチャンピオン ガーデニング王選手権」の審査員なども務める。
 ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>

ゾーニングとは 1

敷地内のスペースを駐車場や門まわり・主庭・サービスヤードなどに大まかに区画割りする事をゾーニングといいます。敷地の条件（接道位置、日当たり、高低差etc.）やお客様の要望（駐車場の必要台数、家族構成、ライフスタイルetc.）を十分考慮して、ベストなプランをご提案出来るよう心掛けましょう。

ゾーニングの手順とチェックポイント 2

さていくつかあるゾーニングの要素の中で一番始めに検討するのはどこが良いのでしょうか？出来れば陽当たりの良い場所をメインガーデン（主庭）として真っ先に確保したいところですが、一般的な住宅地においてはまず駐車スペースを確保する事が先決になってきます。それでは一般的なエクステリアのゾーニング手順とチェックポイントを見ていく事にしましょう。



南入りのモデルプランを使ってゾーニングの手順とプランニングへの展開を解説してみましょう。

	<p>Step 1 敷地状況の確認 建物の配置、道路との高低差などをチェックします。</p>		<p>Step 7 立面イメージの確認 壁や生垣、門扉の高さ及び樹木の高さを決めラフなイメージ図を作成します。</p>
	<p>Step 2 ファサード要素の配置 駐車スペース、門まわり、塀の順にレイアウトします。</p>		<p>Step 8 正式な図面の作成 ラフイメージ図でプランが確定したら、それを元に正式な図面を作成します。</p>
	<p>Step 3 動線の確認 門から玄関までのメイン動線、駐車場からアプローチへの動線、室内からの動線などを描き込みます。</p>		<p>Step 9 カラーリング お客様にイメージをご理解頂けるよう着色して完成。</p>
	<p>Step 4 アプローチ、デッキ(テラス)の検討 動線に合わせてアプローチを計画。必要に応じてウッドデッキやテラスをレイアウトします。</p>		<p>Step 6 植栽計画 シンボルツリーをはじめ主要な樹木の配植、生垣の検討などを行います。</p>
	<p>Step 5 床仕上げの検討 床の仕上げを変えてアクセントを付ける部分を検討します。</p>		<p>Step 7 配植計画 主な庭木の位置を全体のバランスを見ながら検討します。</p>
	<p>Step 6 植栽計画 シンボルツリーをはじめ主要な樹木の配植、生垣の検討などを行います。</p>		<p>Step 8 正式な図面の作成 決定したラフイメージをもとに正式な図面を作成します。</p>
			<p>Step 9 カラーリング お客様にイメージをご理解頂けるよう着色して完成。</p>

ガーデンのデザインも同じように動線と視線を意識してプランニングすることが大切です。それでは事例をもとにゾーニングの手順とプランニングへの展開を見ていきましょう。

	<p>Step 1 敷地状況の確認 ガーデンスペース、周辺環境、隣当たり等をチェックします。</p>		<p>Step 6 花壇、園路の検討 花壇スペースとその形状や、飛び石・敷石などの園路の検討を行います。</p>
	<p>Step 2 視覚的ポイントの検討 室内からの眺めを意識してフォーカルポイント、アイストップなどの添景物の位置をおさえます。</p>		<p>Step 7 配植計画 主な庭木の位置を全体のバランスを見ながら検討します。</p>
	<p>Step 3 動線の確認 庭を通り抜ける動線や室内から庭へ出る動線を描き込みます。</p>		<p>Step 8 正式な図面の作成 決定したラフイメージをもとに正式な図面を作成します。</p>
	<p>Step 4 床材のレイアウト ウッドデッキやテラスのレイアウトを検討します。特にウッドデッキは動線の邪魔にならないよう、必要に応じて変形させる事も大切です。</p>		<p>Step 9 カラーリング お客様にイメージをご理解頂けるよう着色して完成。</p>
	<p>Step 5 形状の修正 デッキやテラスの形を調整し、必要に応じてステップなどを組み込みます。</p>		<p>Step 7 配植計画 主な庭木の位置を全体のバランスを見ながら検討します。</p>

次回は門まわりのデザインテクニックについて解説します。お楽しみに。

オリジナルデザインで部材や小物も開発
エクステリアから住宅まで
トータルに提案しています

大学で建築を学び、卒業後は東京のゼネコンに就職してビルなどを設計していましたが、10年ほど前に退社して、父の経営するエクステリア設計施工会社、(有)ハマタケに加わりました。そして、そこに在籍しながら、3年前に当社を設立しました。



代表取締役・浜田 強 様

当社はエクステリアだけでなく、住宅や店舗の設計施工も行っています。依頼はすべて施主様から直にいただいており、内容はエクステリア7：住宅2：店舗1といったところです。

とくに営業活動はしていませんが、これまで手がけたお客様から、口コミや紹介で次の依頼をいただくことが多いです。また、事務所に併設したフラワーショップがショールームの役割も果たし、店内でハンギング教室などの講習やイベントを行うなど、一般のお客様に親しんでいただけの工夫をしています。

さらに1年半前、部材や小物のメーカーも設立。エクステリアや住宅を設計するさい、欲しい部材がなかなかないので、それなら自分でつくってしまおうと思ったのです。デザインは私のオリジナルで、現在は立水栓やフラワーポット、犬小屋、納屋などを製品化しています。

スタッフは、(有)ハマタケと共通で、設計4名、外構工事2名、建築工事1名、経理2名、フラワーショップの店員2名です。実績は、合わせて月30棟ほどになります。当社のモットーは、エクステリアから建築・インテリアまでトータルに提案すること。普通はエクステリアだけ切り離されてしまうことが多いですが、外まわり+花+住まい+家具など、すべてをトータルで考えてこそ、調和のとれた美しい空間が生まれると思うからです。デザインは、ありきたりだけでなく、かつ普遍性のあるものを心がけ、さらにリサイクル素材を活用するなど環境にも配慮したいと思っています。



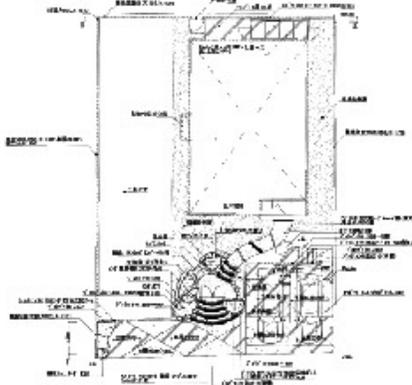
事務所に併設したフラワーショップは、エクステリアやガーデンのショールームとしても活用。



リサイクルの提案も。テーブルは軽便さを再利用して、古い三輪車も役目に。

Y様邸

住宅のレンガ風外壁とコーディネートさせた、素朴でやさしい南仏風のエクステリア。門扉に使われた「プロバンス」が、雰囲気にとりまです。塀の部分はあえてレンガを使わず、コテ仕上げにしたことで、軽快な感じに。カーポートは「カムファイR」を採用。シンプルなので外観全体のイメージを損なわず、しっかりと溶け込んでいます。



【外観全貌】レンガ風タイル造りの風格ある建物。その高さや色に合わせて塀の高さや配分を考えたので、全体のバランスが美しい。アシンメトリー(左右非対称)な門もおしゃれです。



【カーポート】カムファイRのカーポート。美の立水栓は車を洗うために設置。右奥の出入り口は、種から直接玄関に行けるので、買い物の荷物が多いときや雨の日も重宝です。

【アプローチのアーチ階段】レンガ造りのアーチの階段が、訪れる人を優しく迎えてくれます。門を入ると、左のステップは壁へ、右のステップは玄関へとアプローチが二手に分かれます。



【玄関口から門を見たとこ】アプローチやステップ、塀などに曲線が生かされ、やさしくて居心地のいい空間をつくっています。アプローチの中央に埋め込まれたレンガの模様がアクセントに。

T様店舗

エクステリア・インテリア・家具・什器・小物選びまでトータルにプロデュースした店舗。倉庫の高い天井をダイナミックに活用して、ガーデンを室内に呼び込んだ、斬新な洋風居酒屋です。結婚式のパーティなどにも利用され、お客様の評判も上々です。



【店舗のインテリア】池をつくり育の植物を配して、海外リゾートホテルのガーデンのような雰囲気。家具や照明器具にもこだわった、おしゃれな空間です。



【店舗の入り口】池をつくり育の植物を配して、海外リゾートホテルのガーデンのような雰囲気。家具や照明器具にもこだわった、おしゃれな空間です。

石川県金沢市
株式会社 庭芸社様
株式会社 エクステリア・パーク様

「エクステリアパーク」で庭と外構をトータルに提案
お客様がじっくり考えて納得できるエクステリアづくりを

■代表取締役・笠井順二様のお話

京都で造園の修行後、当社を創立したのが27年前。もともと金沢では、造園は植木屋の仕事、外構はまた別の仕事という考え方でしたが、当社は最初から造園と外構をトータルに提案してきました。それがここ10年ほどの「エクステリアパーク」のおかげで、やっと認知されてきたという気がします。

そんな当社のポリシーを反映しているのが、7年前に事務所隣のつくった「エクステリア・パーク」です。ここは300坪の広さをもつエクステリアの展示場ですが、単なる商品展示ではなく、デザイン様式の紹介や生活提案を中心にしている、お客様からも好評をいただいています。

広報活動は、地元テレビ局で週1回放送される住宅探訪番組にCMを入れています。また、毎年連休前にチラシの折り込みも行っています。どちらも「エクステリア・パーク」の紹介です。個人のお客様の場合、まずここに来ていただき、お話を伺いながら商談につなげていくケースが多いですね。

スタッフは営業+プランナーが2名、営業が2名、キャドのオペレーターが1名、実績は月20棟前後です。この世界で長く仕事をしてきたこともあり、金沢公園や県庁前広場といった公共事業も請け負っています。仕事の内訳は、公共事業3.5：ハウスメーカー3.5：個人のお客様3ぐらいの割合ですが、今後はやはり個人のお客様の比率をもう少し増やしていきたいですね。

■営業&プランナー・畠中千春様のお話

「エクステリア・パーク」の接客係として採用されたのですが、学生時代からスケッチが好きで、「基本的な図面は引けます」と社長にアピールし、プランニングも担当することになりました。営業とプランナーを兼ねていると、お客様のお話を直接聞いてそれをプランに反映できますし、一つの物件と最後までつきあえるので達成感があります。忙しい手離れは悪いけれど、毎日が楽しく充実しています。心がけているのは、安全性や便利さは当たり前、そのうえで、お客様のご要望や好みを十分に実現できるようにすること。そのため4~5回は打ち合わせをしますし、あまりせかさずに、お客様の思いが固まるまで待つことも必要です。じっくり考えて納得されたお客様は、その分満足度が高く、後々ずっといおつき合いができますね。

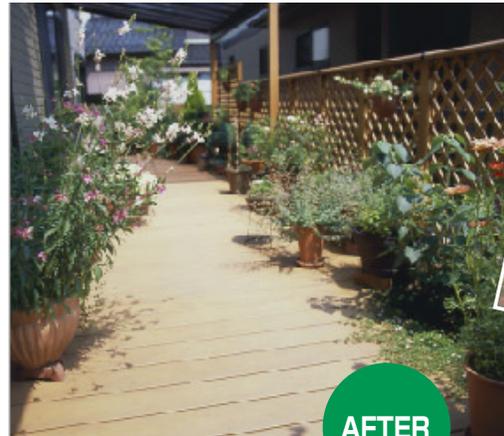


代表取締役・笠井順二様、
営業&プランナー・畠中千春様

【デッキを左側から見る】
敷地の左側いっぱいにはのびたデッキ。1.2m以上の長さがあることで、お字さまものひびと走りまわっているとのこと。木が植えてある奥の一角は土の庭を残しています。



【デッキの左端】
ガーデニング好きの奥様の要望で、左右の隅に盛り土をして土の庭を少し残しました。これは左の隅。土があるとゴールドクレストなど樹木も植えられるので、庭のアクセントに。



AFTER

【デッキを右側から見る】
いところどころに花鉢が置かれ、デッキ全体がまるでお花畑のよう。左奥には一部屋根を設けたため、雨の日もデッキに出られます。

M様邸

もとは芝生+生垣の庭でしたが、興行がなくて狭く感じられたため、お客様はデッキをご要望。そこで、中途半端でなく端から端までデッキを渡して、広々としたスペースをつくりました。デッキ&フェンスは木粉入り樹脂デッキ「リサイド」を採用。北陸の冬は湿気が多く積雪もありますが、樹脂製なので腐食の心配がなく、快適にお使いいただいています。表の駐車場には積雪対応の「スーパーポートG1」を設置。お客様がアーバングレーのやさしい色調を気に入られたのが、採用の決め手でした。



BEFORE



【表の外観全景】
カーポートには100cm積雪対応の「スーパーポートG1」を採用。頑丈な柱と梁、波形のガルバリウム鋼板屋根が、しっかりと雪を受け止めます。色がアーバングレーなので重く感じず、建物ともやさしく調和しています。

提案型の展示場「エクステリア・パーク」でゾーンごとにさまざまな庭を紹介

「エクステリア・パーク」は、300坪という北陸最大級の庭と外構の展示場。金沢市街から車で20分の手軽さもあって、週末はたくさんのお客様でにぎわいます。洋風・和風・テラスガーデンなど、ゾーンごとにさまざまな庭がつけられ、「こんな庭をつくりたいと夢がふくらんだ」「素材の使い方が参考になる」などと大好評です。

2. イングリッシュガーデン
自然との調和が美しい



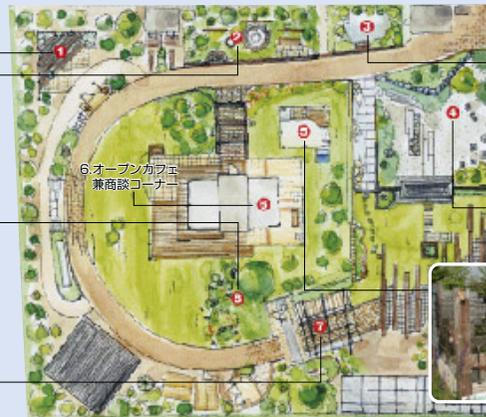
1. テラスガーデン
自然浴生活を豊かに楽しめそう



8. ロックガーデン
石・花・緑が織りなす立体的調



7. カーポート
積雪地域型「Uスタイル」と、デザインフェンス「メロディア」を使用



3. ビオガーデン
情緒ある池のたたずまいが印象的



5. ドッグガーデン
犬との楽しい生活に



4. 和風庭園
伝統に新感覚をプラス

主婦+アーティスト+職人の切磋琢磨が
暮らす側に立った美しいエクステリアを生み出す

この世界に入る前は、専業主婦でした。10年ほど前、自宅を新築したんですが、建て終わってからいろいろと不満が出てきたんです。とくにエクステリアはイメージがわきにくく、素人にはわからない部分が多いと実感。それをきっかけにエクステリアに興味を持ちました。そのうち自分で提案したいと思うようになり、その折に素晴らしいプランとの出会いがありました。センスあふれる設計をする芸術家肌の海谷、誠実な施工を行う職人気質の三浦。そんな彼らと、2年前に会社を設立したのです。

当社は、会社というより1人1人個性が高いプロ集団です。設計は海谷、その図面を描くのは荻野と鈴木、施工は三浦に一任し、それぞれ質の高い仕事をしながら、ひとつのものにまとめ上げていくのです。

プロは時として独りよがりの提案をすることもありますが。そんな時に私は、生活者の目で、「それじゃ使いにくそう」などとモノ申し、お客様の不満や不安を代弁するようにしています。とにかく「私を十分に納得させたものでない」と、シビアにプランをチェックします。もちろんお客様との話し合いは可能な限り駆け、ご要望やライフスタイルを聞くだけでなく、こちらからも素材の知識とか、どうこういう価格になるのかなど、一般の方にはわかりにくいことをきちんと説明して納得していただいています。これらは私の家づくりの苦い経験から来ているのです。

商圏は埼玉県全域で、実績は現在月に20棟前後です。ハウスメーカーからの紹介が中心ですが、個人のお客様を増やしていこうと、このほど事務所の一部を改装してお店にしました。ここに「エクステリア相談室」を設け、キメ細かい相談に乗りながら、よろしかったら工事も請けますよ。と。そして、これからも、プロの誇りをもって、押し付けや独りよがりでない、「お客様の予算の中で100%実現できる提案」をしていきたいと思っています。

■遊び心を大切に、低コストの工夫も

統括・海谷繁樹様のお話

「新しい発想、新しいニーズで「遊び心」をもってデザインする……プロとしてそこにこだわっています。また、お金をかければ良いものができるのは当たり前ですが、素材や施工の工夫で、より低コストでいいものをつくり出していきたいですね」



取締役社長・井上佳子様



スタッフはチームワーク抜群。左から三浦忠雄様、井上渉様、井上佳子様、鈴木由紀乃様、荻野真理様。

【外観全景】
素材や色使いに建物との一体感がある。シンプルなオープン外構。シンボルツリーがさりげなく目隠しの役目も果たしています。



K. J 様邸

お客様から「海谷さんを信頼してお任せします」と言われたプラン。基本はオープン外構ですが、塀の素材や高さを変えることで、見せる部分と隠す部分を分けて、左側の駐車場は楽しく開放的に、右側の芝生の庭はややくローズな落ち着いた雰囲気になっています。また、駐車場の裏には小さな和のスペースを設け、この庭づくりはお客様に一任。「お客様が自分でいじれるところを残しておくことも、庭を長く愛してもらおうコツです」



【アプローチで左右を仕切る】
手前は駐車場、奥は芝生の庭。その間をアプローチが通り、広さを損なうことなく2つの空間を仕切っています。



【外観全景】
建物がシンプルなので、エクステリアに暖かみや遊び心をプラスして楽しい印象。



【和のスペース】
駐車場の後ろの和の庭は、お客様が自分でつくったもの。ご主人は庭いじりが趣味になり、家に帰るのが楽しみになったそうです。



【玄関から門へ】
アプローチをくねくねと曲げ、門を斜めに配置することで、狭い空間を広く長く感じさせてくれます。



【駐車場の床】
天然石流りに見えますが、実はコンクリートを敷き、手で目地を彫ったもの。低コストで、スタンプよりはるかに見栄えする仕上がりです。

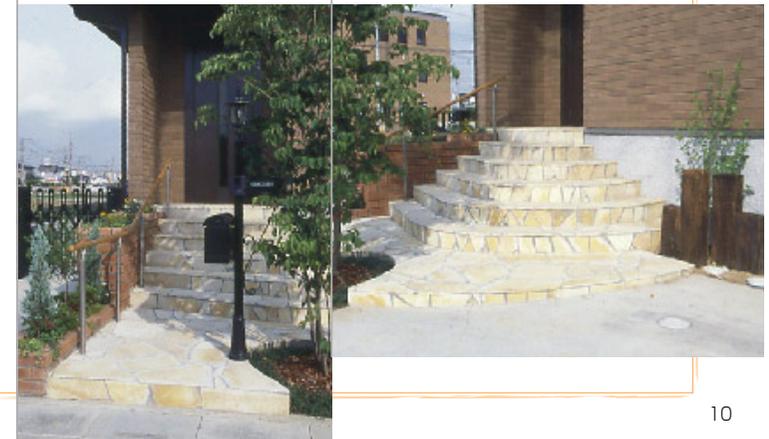


【天然素材でやさしく】
レンガ、天然石の乱張り、木漏れの手すり「エトランポ」など、ナチュラルでやさしいアプローチが印象的。階段は設計では6段だったのを、上りやすさを配慮して現場で7段に。

【円形の階段アプローチ】
高低差を上手にとって、たっぷりとした、円形の階段を設置。どの方向からも上りながら楽しく、切いお子さんも大喜びだそうです。

K. N 様邸

ここも基本は「お任せ」でした。敷地に高低差がかなりあるため、その処理をどうするかポイントに、「上り下りをスムーズにするために、設計時よりもステップの段数を1段多くしました」(施工担当・三浦様談)。こうした現場のキメ細かい施工が、住みやすさにつながります。手すりには「エトランポ」、脇の入り口の伸縮門扉には「エアリーナ」が採用されています。





竹

特別講座 京の庭師に学ぶ「和の庭」素材編
**「和の庭」の凛とした空気や
 清々しい美しさは、竹が支えています**



「和の庭」案内人
 つだ ひでお
津田 秀夫
 昭和29年生まれ。
 東京農業大学農学部造園学科卒業。
 (株)穂清・津田造園同社代表取締役。
 平成16年、京都府優秀技能者
 「現代の名工」受賞。
 現在、(社)京都府造園建設業協会理事。
 京都府造園協同組合副理事長。

※(株)穂清・津田造園は明治11年創業。京都府より「京の老舗」として表彰。津田さんが5代目となる。

「中川利春さんは、長年一緒に庭づくりをしてきたパートナーです。彼に竹垣のイメージをひとつと話す上、「ほな、ちやうしよし」と同様の呼吸で構想が進む。その経験とセンスには絶大な信頼を置いています」

前号から私・津田秀夫が案内人としてお送りしている「和の庭」づくり、今号からは庭を構成する素材についてお話しします。
 まずは「竹」。私のよき仕事のパートナーでもあり、元禄時代から京都で造園用竹材を扱い、竹垣の設計施工を行ってきた中川利春さんに、庭を美しく引き立てる竹の魅力や、竹垣の種類と使い方を教えていただきましょう。



なかがわ としはる
中川 利春
 昭和23年7月5日生まれ。
 京都府立田辺工業高等学校卒業。
 自動車関係の職業を経て、
 竹又・中川竹材店に入店。
 一級竹芸技能士
 (割組竹芸品製作作業、
 編組竹芸品製作作業、
 丸竹加工竹芸品製作作業)を保有。

※竹又・中川竹材店は、元禄元年(1688年)、竹屋又四郎が「竹屋」を屋号として創業。その後三百年以上にわたる伝承された技術で、小物、雑貨から庭園の竹垣まで幅広くデザイン・製作・施工している。

「寸法もデザイン」だからこだわる
 庭における「竹」は、土や砂利や苔やらと同じひとつの素材です。決して竹が偉そうにしてもらいたくありません。素材のひとつとして庭のなかでどう生かしていくか、ということが大切なのです。ただ、脇役ではありませんが、時々こう…「目立ったるか」という感じですかね(笑)。庭の景色を引き立てながら、竹の美しさも見せたいなと。
 最近では、竹垣も機能的で便利な既製品が出ています。ただ竹垣というのは、もともと寸法の決まったものではなく、庭の空間に合わせて一つひとつタテヨコを決めてつくっていくもの。庭の空間や雰囲気はそれぞれ違います。そのなかで竹垣がバランスよく納まる寸法は、現場でその庭に合わせて決めるしかない。それは京都の造園に関わる者として譲れない部分です。ですから、みなさんが既製の竹垣を使用する場合でも、空間との調和を見ながら高さを変えてみるなど、全体のバランスを重視していただきたいですね。

なぜ寸法にそこまでこだわるかといえば、「寸法もデザイン」だからです。
 庭のデザインは津田さん(本誌前号に登場)のような造園屋が行い、私は竹屋として彼の指示に沿って竹垣をつくります。たとえば津田さんに「建仁寺でいいか?」と言われたら、竹垣は建仁寺垣になります。そして寸法を決めるんですが、その庭のなかでどんな大きさだと調和するか、後ろの景色とのからみはどうか、縁側に座ったときにどう見えるか……と、いろいろな視点から考えるのです。竹を実際に手に持って「この高さでどうやる?」と何度も検証するなど、寸法決めは非常にシビアに行われます。寸法が狂うと空間のバランスが悪くなり、どんなデザインでどんな素材を使おうか台無しだからです。



黒文字の小枝を払い1本の枝にしているところ。これをまっすぐに伸ばして揃え、黒文字垣をつくります。



中川竹材店での作業風景。竹は使用する前にこうして洗い洗います。

きれいなだけでなく、暴れさせる

竹垣のなかで「穂垣」といえば、萩、黒文字、竹の枝などの細い枝を1本1本集めて編み上げたもの。こういう垣は、きれいに揃えて整えるのが基本ですが、「この垣根のこのへんは、やんちゃして、暴れさせとこか」などと、池のさわか石積みのおなどを過度に「暴れさせる」こともあります。京の庭はまささらな燈籠ではなく、わざわざ苔のついたものを尊ぶ。それと似た感覚で、きっちりときれいにつくりすぎず、一部を暴れさせ、そ

に風情が生まれるのです。
 こういった感覚にしても、また、よく「この高さに対して、どんな太さの竹をどんな間隔で配置すればいいんでしょうか」などと聞かれますが、割付や高さのバランスにしても、マニュアルなどありません。弟子入りして修行して身体で学んでも、最後は自分の感性の問題。それを磨くには、常に考えて、やってみて、経験するしかありません。

竹垣のいろいろ

和の庭でよく使われている竹垣のデザインは、以下のように、ほとんどが伝統的なものです。伝統デザインは、何百年という長い長い時を経て、よく考えられ完成されています。それに対抗できるような新しいものを創作するのは至難の業です。それに、ただ新しくすればいいというわけではない。大切なのは「洗練」で、新しくても洗練されていなければ意味がありません。

伝統デザイン

四ツ目垣

透かし垣の代表。小竹を縦横に組んだだけのシンプルデザインです。垣越しに透けて見える景色に奥行きがあるので、狭い露地などの手前で仕切れば、実際よりも奥行きと広がりを感じさせることができます。

建仁寺垣

割り竹の立子*1を竹の押縁*2で押さえた構造の竹垣。遊蔽垣(目隠しが目的の垣)として、もっとも普遍的、代表的な垣のひとつです。隣接を仕切るのに適しますが、あまり背を高くすると圧迫感が出るので注意。



光悦寺垣
 竹のもつしなやかさが、職人の技で巧みに生かされた透かし垣。曲線の美しさと柔らかな色が見どころです。庭の一部を軽く仕切りたいときに使うと、空間に軽やかなリズム感が出ます。



御簾垣
 細い竹を横に積み上げたシンプルな垣。意匠が御簾(＝すだれ)に似ているところから、この名があります。モダンなイメージがあるので、和の庭芝生の庭といった和洋折衷の庭の境界に使うと、どちらの庭にも調和します。



*1) 立子(たてこ) 垣を組むさいに、縦に使う材。
 *2) 押縁(おしひぢ) 立子を押しさえ、水平方向に取り付ける材。

2005 EXTERIOR DESIGN CONTEST

A部門 新世代向け部門

最優秀賞 (有)ワンズガーデン様

ライトグリーンの爽やかカラーリングのカーポート「ラファール」そして赤茶色ステインのウッドデッキの取り合わせは、住み手の「若々しさ」が溢れている。



C部門 スペース提案 2部門

最優秀賞 (株)イナテック様

緑を伴った素敵なフロントデザインとなった。即ち、アーチ型吊り下げタイプの「U.スタイル」がそのメリットを十分に出した設計施工である。とくに門の石小端積み（石貼り）が高級感を出している。



B部門 スペース提案 1部門

最優秀賞 (有)和田建材様

「風呂庭」の演出の仕方としてユニークな好例である。立体ツリーサークルに和風スクリーンのマッチング。「マイパティオ」の特色を巧妙に引き出している。即ち風と光を浴槽前の坪庭への導入に成功している。



D部門 リフォーム部門

最優秀賞 (株)ヨコイハウジング様

カーポート+門柱門扉を手前に移動し、実にスッキリした明るいフロントに変貌したものである。



AFTER

BEFORE



2005 EXTERIOR DESIGN CONTEST

E部門 ガーデンエクステリア部門

最優秀賞 セキスイエクステリア(株)ザシーズン 世田谷 様

古い「当家」のシンボルツリーであるシダレザクラを十二分に生かした点がbest!!! 中央プランターの、タテに枕木に似た凝石を階段の踏込部にも使ってコーディネートし、又、ラミーネ3型のシックでストレートな門扉が住宅外観正面と合致した街並みデザインとなっている。



F部門 ウォールエクステリア部門

最優秀賞 (有)ひまわりグリーンガーデン 様

人工木デッキ「ひとと木」のローズウッドカラーによる2段デッキは、テラス「ナチュラル」とコーディネートされており、庭との一体感を出している。またマイリッシュのハイパーティションがアクセントとなっている。



G部門 建築外構部門

最優秀賞 (株)K構造研究所 様

福祉施設の渡り廊下が緊急車輛通過部分を上げるため2段となっている。これにプレラウエイSのゆるいアーチ屋根を使い「リズム感」を生み出している。



H部門 土木景観部門

最優秀賞 石原テクノ(株)様

立派な屋根が印象的なJR駅舎のフロントシェルターである。バスの高さ、歩行者の高さ双方にそれぞれ片持ち屋根を出しているが、極めてバランスが良い。駅前風格を保ちながら機能もフォローした好例。



スーパー御庭番の達人たち… ③

ユーザー様のハイレベルな仕事をレポートするこのシリーズ、今回は、初心者が短期間にここまで使いこなせるようになった…という御庭番スーパー上達法をうかがいます。

全くの初心者が、半年で120件以上も！その「スーパー上達」の極意は？

「スーパー上達の達人」安藤仁様のお話

大阪府吹田市
株式会社トゥワン
総務部・安藤仁様



御庭番は初めてでもすぐ使えるのがうれしいわからないことはそのつど教わりました

あの…私、ちょっと場違いじゃないかと思うんですが…。今まで登場した「スーパー御庭番の達人たち」の方々は、みなさん本当にスーパーテクニックをお持ちで、普通ではなかなかできないことを工夫して描いていますが、私にはそんなテクニックはありません。プランニングの勉強をしたこともなく、現場経験もありません。それどころか、御庭番を使い始めてまだ半年ほどなんです。全く白紙の状態でしたが、御庭番は最初からとつきやすく、2日間の講習ですぐにいじれるようになり、1週間ほどすると簡単な絵は描けるようになりました。一つ一つの操作が同じ流れて、たとえば「壁」とか「階段」とか、コマンドは違いますが使い方は一緒なので覚えやすいんです。ただ難しかったのは「勾配」です。現場に行ったこともなく、エクステリアの基本的知識もほとんどなかったため、高低差というものがどうもつかみ

にくくて……。それも単純な傾斜ならまだしも、ひねりが入っていたり凹凸があったりすると、もうお手上げでした。でも藤井常務にわかりやすく図解してもらったり、何度もチェックしてもらったりするうちに少しずつ慣れていって、いまでは図面に入った数字だけで、その勾配が頭に浮かぶようになりました。これまでに120件以上の物件を描いてきましたし、現在月に20件以上は手がけています。勾配もなくアールもないようなシンプルなものなら、大きさにもよりますが2時間程度で仕上げられますね。描くときのコツとしては、全体の色調を統一すること。たとえばナチュラルな感じにしたければ、ページの濃淡でまとめるときれいに見えます。また、メインはエクステリアなので、建物は主張しないようにシンプルに描いています。植栽ももっと使い分けたい、いま勉強中です。今後はエクステリアの勉強をして、言われた通りに描くだけでなく、自分自身でプランニングしながら描けるようになりたいと思っています。

常務取締役・藤井容介様のお話

法人営業に、早くて説得力のある御庭番を導入売り上げアップに確実に貢献しています

当社がデベロッパーや建売業者相手の法人営業に本格参入することになった昨年末に、御庭番を導入しました。法人営業の場合、商談ペースが早く、まとまった量のプレゼンテーションをスピーディに提出し、なおかつそれが説得力のあるものでなければならぬため、御庭番は必須だったのです。そして総務の安藤に御庭番を使ってもらったんですが、予想以上に早くマスターしたのは驚きました。外構の基礎知識がないので、勾配をはじめ専門用語につきまこともありましたが、そのつどフォローすることでどんどん上達して、いまではもう安心して任せられます。

おかげさまで、御庭番導入後の法人営業の伸びはめざましく、名古屋にも支店をオープンすることができました。ここでも御庭番を導入する予定です。



常務取締役・藤井容介様



最近では、この程度のシンプルな物件なら、2時間もかからないそうです。



上達へのステップ・その1

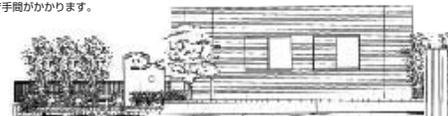
描く → チェック → 描く → チェック で「勾配」など苦手分野もしっかりとマスター



藤井常務からの指示は、こんなふうに図面にメモのなぐり書き。これを見ただけで、きれいなカラーバースを作成できるなんてすごいです！

複雑な勾配、複雑な床材にアールを多用したライン——こんな図面も上手に描けるように。「勾配が場所によって違う場合、傾斜の指定面に合わせていちいちレベルを取るので手間がかかります。もっと簡単に処理できるようにしてほしいですね」

プランは藤井常務が考え、図面にフリーハンドでメモ書きしたものが渡されます。それをもとに御庭番に起こしていくんですが、ひと通り描いたらチェックしてもらい、描き直し、またチェック…というふうに、繰り返しチェックを受けています。そのつど細かい指示をいただけるので、とても分かりやすいのです。苦手だった「勾配」は、高低差の立面図を描いてくれたり、地図の等高線のように高さの線を図面に描き込んでくれたり。そんなふうに繰り返し教えてもらっているうちに、頭の中で立体がイメージできるようになっていったんです。いまでは図面に入った数字だけで勾配が頭に浮かび、複雑な勾配でも戸惑わずに描けるようになりました。



描き上がった御庭番をチェックし、細かい指示の指示が、この繰り返しで上達への道なのです。

上達へのステップ・その2

数をこなす！ 時間に迫られて描く！まさに「必要は上達の母」

当社はデベロッパーや建売業者相手の法人営業も行っているため、扱う物件の量が非常に多いんです。御庭番のオペレーターもアルバイトを入れて3名いますが、1人あたり月に20件以上こなさなくてはなりません。それに、たとえば「1件」といっても集合棟なら数軒分をまとめて描くんです。ですから、わからない、できないと言って時間はありません。どんどん描いて、チェックを受けて、また描いてと数をこなしていったのが、御庭番短期上達の秘訣だったのではないのでしょうか。



こういった集合棟も描くので、量は増える一方。「勾配が個別に違う場合でも、全部くっつけて描くことができるようになりましたね」



EXTERIOR VIEW 2005
Vol.25